



善性寺・蓮如像



櫻井三郎左衛門像



富樫家国像

金沢・白山・かほく・野々市・津幡

富樫氏と一向一揆

史跡探訪マップ



松根城跡と春風亭昇太師匠



三俣本泉寺庭園



賀茂神社



高尾城跡

加越国境城跡群



龍ヶ峰城跡



鳥越城跡本丸門

とがし
富樫氏

富樫氏は、藤原利仁の流れをくむ加賀斎藤氏の一族で、高橋川中流域の富樫郷を拠点とした。利仁から7代の家国が「富樫介」を称したことが富樫氏の始まりとされ、康平6年(1063)には野々市に館を築いたとも伝えられている。

同じ斎藤氏の一族で先に勢力を強めていた林氏の嫡流が、承久3年(1221)の承久の乱で朝廷方につき衰退したことから、幕府方であった富樫氏は加賀における武士団の筆頭となり、守護を歴任する北条氏一門の代官を務めている。

その後、富樫高家は南北朝内乱期の戦功から、建武2年(1335)加賀国の守護に任じられた。高家は守護所を野々市に置き、富樫氏が構えた

館が政務を司る守護所にあたりと考えられる。

嘉吉元年(1441)、富樫教家は將軍の怒りに触れ失脚したことが発端で富樫氏の分裂が始まり、長享2年(1488)加賀の一向宗門徒の攻撃とそれに加わった一族の富樫泰高によって守護富樫政親は敗北し、政親の居城高尾城は落城する。

戦国期には、富樫泰高一流が加賀国の守護職を引き継ぐが、実権は一向一揆がもち、富樫氏の勢力は衰えていく。元亀元年(1570)守護富樫春貞は金沢市伝燈寺で一向宗門徒に討死され、富樫氏は滅亡する。富樫館はこれ以降に廃絶していったと思われる。

加賀一向一揆

文明3年(1471)、本願寺8代蓮如は、加賀と越前の境に吉崎御坊を建立し、北陸への布教を強化したことで、真宗門徒は急速に拡大した。

文明6年(1474)、蓮如の本願寺派と旧来の真宗勢力・高田派の争いに富樫家の内紛が絡み、戦闘が起こったが、蓮如が味方した政親が勝利し、加賀守護となった。その後、大きな勢力を持った一向一揆衆は、政親に弾圧され、越中井波瑞泉寺を頼って逃げのびたが、文明13年(1481)に福光城主である石黒氏と争い、これに勝利したと伝わる。蓮如が開いたと伝わる加賀と越中国境の砂子坂道場跡には大規模な堀が構えられており、当時の緊張状態を今に伝えている。勢いを増した一向一揆衆は、長享2年(1488)に、抗争の末に政親を高尾城に自害させた(長享の一揆)。この事件によって、一向一揆衆の存在は一段と重要なものとなり、「百姓ノ持チタル国」と評されることになった。その後、国支配の実権は、若松本泉寺の蓮悟(蓮如七男)、波佐谷松岡寺の蓮綱(蓮如三男)、山田光教寺の蓮誓(蓮如四男)ら賀州三ヶ寺が掌握した。

しかし、本願寺法主が10代証如へ代わると、永正の一揆の後に越前から逃れていた藤島超勝寺の実頭や本願寺内衆の下間頼秀が台頭した。

享禄4年(1531)に、藤島超勝寺や和田本覚寺と賀州三ヶ寺による内乱が起きたが(大小一揆、享禄の錯乱)、これによって蓮悟等は没落し、超勝寺や本覚寺が本願寺の代理的立場となった。

天文15年(1546)に本願寺の加賀別院として金沢御堂が建立され、永禄年間(1558~70)に超勝寺を排除すると、金沢御堂は加賀の政庁としての役割を担い、周辺には寺内町が形成された。

織田信長と大坂本願寺による石山合戦は天正8年(1580)に和睦によって終戦するが、加賀



▲「本泉寺境内之図」(本泉寺蔵)

で陣を張っていた柴田勝家は、信長の停戦命令に応じず、金沢御堂や鳥越城等を攻撃した。ここに至り、金沢御堂は陥落し、約100年続いた一向一揆による加賀の支配は終焉を迎えたのであった。

■加越国境城跡群及び道

加賀と越中の国境を舞台に繰り広げられた前田利家と佐々成政の争いの痕跡を現在に伝える「加越国境城跡群及び道」は、平成27年10月に国史跡に指定された。この史跡は、城と道を一体的に価値付けして指定された日本で最初の事例であり、極めて貴重な歴史資産であると評価されている。



▲前田利家 原画作成：宮下英樹

当時、加賀国と越中国を結ぶ国境の街道にはいくつもの山城が築造されていた。その歴史的背景は、織田信長亡き後の天下統一へ向け、天正12年(1584)、羽柴秀吉と敵対した織田信雄・徳川家康連合軍が尾張の小牧・長久手で争ったことによる。前年の賤ヶ岳合戦の後、秀吉に降伏することで越中に留まった佐々成政は、これを機に反秀吉へと方針転換し、秀吉方の前田利家と敵対した。加越国境城跡群は、この時期に築造もしくは改修された城跡群と考えられる。

加越国境城跡群としては、荒山城跡、高峠城跡、朝日山城跡(以上、金沢市)、龍ヶ峰城跡、津幡城跡(以上、津幡町)、一乗寺城跡、源氏ヶ峰城跡(以上、小矢部市)などがあるが、調査が進んだことで国史跡指定されたのは、切山城跡及び松根城跡とそれらを繋ぐ小原越である。

切山城跡は、越中側に大きな堀を設けている



▲切山城跡復元イラスト 原画作成：香川元太郎 監修：千田嘉博

ことから、越中の佐々方の攻撃に備えた前田方の城である可能性が高く、逆に松根城跡は加賀側に大きな堀が認められることから、佐々方の城と考えられ、小原越を通じて対峙している。

両城跡の年代は、城の形や出土遺物、古文書などで、天正12・13年にほぼ限られることから、織田・豊臣の武将が築造した城郭の発展過程が把握できる希有な事例となり、近世城郭の成立過程を知る上での標識遺跡になると評価されている。



▲加越国境城跡群及び道の位置(天正12年頃)

城と道の関連については、城の堀によって小原越が切断されていることが明らかになった。これは、城が街道を戦時封鎖していることを遺構で確認できた初めての事例であり、城郭史研究における新たな視点を示すと共に、当時の加越国境における緊迫した状況を伝える重要な遺跡群と評価されている。



▲佐々成政 原画作成：宮下英樹



▲松根城跡復元イラスト 原画作成：香川元太郎 監修：千田嘉博

史跡解説と詳細マップ

① 櫻井三郎左衛門像

かほく市高松ヤ57-4

天正12年(1584)、越中の佐々成政が前田方の末森城を包囲したため、前田利家は末森城救援に向かう。高松村の櫻井三郎左衛門は海岸沿いを通過する抜け道を利家に進言したので、末森城救援に成功した。この功績により高松村は地子銀の永代免除が与えられ、藩政時代に宿場町として大きく繁栄したと伝えられる。



MAP 1

② 賀茂神社社叢

かほく市横山リ119番地1

賀茂神社が現在の横山の地に移ったのは大同2年(807)と伝えられており、平安時代の後期から戦国時代にかけて、京都の賀茂別雷神社(現在の賀茂神社)の直轄領であった。天正12年(1584)の末森城の戦いでは、戦いに敗れた佐々成政の軍勢が撤退する際、伏兵を恐れて社叢に火を放ったと伝えられる。



MAP 1

③ 津幡城跡(町史跡)

津幡町字清水リ1

天正11年(1583)、加賀国は前田利家の支配するところとなり、越中に対する備えとして津幡に城を築き、弟の前田秀継に守らせた。翌年には、佐々成政の末森攻めの際に、末森城救済の軍議をここで開いた。※隣接して津幡ふるさと歴史館「れきしる」がある。



MAP 2

④ 鳥越弘願寺跡(町史跡)

津幡町字鳥越二11

創建は観応元年(1350)、北加賀における一向宗の最初の拠点と考えられている。寺院の規模は東西約210m、南北約330mと推測され、「オヤシキ」と呼ばれる主郭部を自然丘や土塁などが取り囲んでいる。



MAP 2

⑤ 笠野鳥越城跡(町史跡)

津幡町字七黒二79

元々は一向一揆の鳥越弘願寺を守るための砦であったが、天正11年(1583)に、前田利家が越中の佐々成政に備えるために、改良し使用した城。天正13年(1585)秀吉軍の越中進攻により、戦いがおさまると廃城となった。

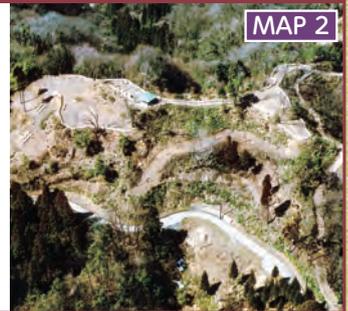


MAP 2

⑥ 龍ヶ峰城跡(町史跡)

津幡町字上藤又へ31

近世北陸道を臨む龍ヶ峰城は、一向衆や佐々勢の城として活用された。城は北陸道に対して、いくつもの曲輪を設けており、道に対する強い意識が表れている。幅約7mの堀切や、狭く作られた入口や土塁などさまざまな防御施設が設けられている。



MAP 2

MAP 1



⑦ 切山城跡(国史跡)

金沢市桐山町ウ27番外

標高139mの尾根頂部を中心に造成された、東西約200m、南北約250mの山城である。発掘調査により門跡や、タイ産の鉛で作られた鉄砲玉等が発見されている。東端の横堀の規模が大きく、越中側からの攻撃に備えて築城された前田利家方の城跡と推定されている。



MAP 3

MAP 2



8 松根城跡 (国史跡)

金沢市松根町レ5番外

加賀と越中の国境となる砺波山丘陵の最高所に築城された東西約140m、南北約440mの規模をもつ山城で、門跡や道跡等が発見されている。西端の幅約25mの大堀切によって尾根上の道跡(小原越)が切断されており、小原越を戦時封鎖するなどした、佐々成政方の城跡であると推定されている。



MAP 3

9 砂子坂道場跡

金沢市砂子坂町ケ35番外

蓮如の布教によって建立されたと伝わる真宗道場に関する遺跡で、後の南砺市城端善徳寺及び同市福光光徳寺の故地と伝わっている。発掘調査では、蓮如が布教した時期を含む15世紀後半の土器・陶磁器や国境付近の尾根筋に延長約800mの堀跡が見つかっており、一向一揆の争乱に関係した遺構と推定される。



MAP 3

10 二俣本泉寺

金沢市二俣町子8

嘉吉2年(1442)に越中井波瑞泉寺の如乗が開創した真宗大谷派の寺院。如乗は本願寺八世蓮如の叔父であることから、その繋がりが深く、本泉寺と名付けたのは蓮如で、本堂の背後にある九山八海の庭(県指定名勝)は蓮如作庭と伝わる。天正年間(1573-1591)には、佐々成政の兵火により焼失したが、慶長8(1603)年に前田家の庇護を受け、現在に至る。



MAP 3

11 伝燈寺

金沢市伝燈寺町ハ179

臨済宗妙心寺派寺院、宝亀山と号し、寛永元年(1308)恭翁運良を開山にしたといわれる。加賀の五山派の有力寺院となったが、その後、実質的に河北郡一向一揆の影響下に置かれた。元亀4年(1573)織田信長勢に内通を謀って追われた富樫晴貞が当寺で自害した。



MAP 4

12 若松本泉寺跡

金沢市若松町レ212

二俣越を臨む標高77mの丘陵上に所在し、蓮悟(蓮如七男)が長享元年(1487)に建立した若松本泉寺と伝わる。周辺には「御坊山」や「オヤシキ」などの地名が残る。加賀一向一揆では、松岡寺(能美郡波佐谷)・光教寺(江沼郡山田)と共に賀州三ヶ寺と称し、真宗勢力の中心の一つだったが、享禄4年(1531)の享禄の錯乱における焼き打ちで廃絶した。



MAP 4

※溥徳寺墓地内にあり。

13 金沢御堂

金沢市丸の内71番18外

金沢城跡本丸部分が故地とされ、天文15年(1546)に石川郡一揆によって創建され、本願寺証如より本尊などを下付された。享禄の錯乱以前の賀州三ヶ寺、特に若松本泉寺の役割を受け継ぎ、加州惣国の政庁として機能した。天正8年(1580)に本願寺顕如と織田信長の和議が成立したが、柴田勝家が加賀に乱入し、開城した。



MAP 4

MAP 3



14 高尾城跡

金沢市高尾町ウ31番地

標高190m程の丘陵先端部一帯に所在する山城。長享2年(1488)の一向一揆によって落城された加賀国守護・富樫政親の城として知られており、史料中には、富樫氏の城として多胡城や富樫城など見える。見晴らし台が整備された場所は通称「ジョウヤマ」と呼ばれ、昭和45年の土取りで大半が失われたが、背後の通称「コジョウ」には現在も遺構が残る。



MAP 5

MAP 4



15 御廟谷 (県史跡)

金沢市額谷町

高尾城跡の南麓、七瀬川の谷頭の額谷町にある御廟谷は、加賀の守護富樫氏の累代の墓所と伝えられる。地形は四段に分かれ、上段の「寺屋敷」と呼ばれる位置には、石材が散在し、その下段には五輪塔一基を中心とする石塔がみられる。



MAP 5

16 善性寺

金沢市四十万町リ153

真宗大谷派の寺院で、霊峰山と号し、応永34年(1427)に敬授が開山。3代法敬坊順誓のとき富樫氏の援助により寺基が固められた。また、蓮如上人が文明3年(1471)年12月上旬から翌年2月まで逗留した。宝物として、県指定文化財「版本 三帖和讃並正信念仏偈(4帖)」、市指定文化財「紙本墨書正信偈」など貴重な資料が伝世している。



MAP 5

17 大乘寺跡

野々市市本町1-35-9

大乘寺は富樫家尚が建てた密教寺院で、その後の永仁元年(1293)、加賀国最初の禅寺となった。寺の位置は、市内北東部の本町から押野一帯にあったと推測されている。現在、本町にある高安軒(室町期に富樫高泰が開いたとされる寺)に「大乘寺旧址」の石碑が建つ。



MAP 6

18 富樫館跡石碑 (市史跡)

野々市市本町2-307-1

富樫館跡は、富樫氏代々の居館跡で加賀国の守護所でもあった。実際の館の場所は、この地から南約200m離れたところ(⑳守護所富樫館跡)にあるが、昭和42年(1967)、富樫館の存在を広く知らせるために、富樫卿奉賛会(現富樫氏頌徳会)と金沢工業大学がこの石碑を建立した。



MAP 6

19 住吉の宮 (布市神社) (市史跡)

野々市市本町2-14-6

住吉の宮(現布市神社)は、康平6年(1063)、富樫家国が野々市に館を構えた際、敷地内に社殿を造営したものと伝えられている。境内には、弁慶が投げたといわれる「弁慶の力石」や、明治22年(1889)富樫氏の事跡を後世に伝える石碑「富樫氏先業碑」がある。



MAP 6

20 守護所富樫館跡 (市史跡)

野々市市住吉町235-2

加賀国の守護富樫氏が構えた館跡で、中世における政治・経済・文化の中心となったところである。平成6年(1994)の発掘調査で館を囲む堀の一部を発見し、館の位置を知る貴重な手がかりとなった。現在は広場となって開放されている。



MAP 6



21 松任城跡

白山市古城町42

松任城跡は、14世紀末～15世紀に、この地域を支配した松任氏の館跡と推測される。室町時代末～戦国時代に、一向一揆の門徒組織「松任組」の城として改築されたが、天正8年(1580)に織田方の攻撃により落城。その後、前田利長が居城し、現在の形状に改築され、慶長10年頃(1605)に廃城となった。※松任駅南口右側



22 槻橋城跡 (市史跡)

白山市月橋町ソ60-1

槻橋城跡は、「御蔵山」と呼ばれる尾根一帯に、土塁や空堀によって構成された中世の山城跡。「御蔵山」の語源は郭跡より、炭化米が出土したことから、米蔵があったとされることによる。室町時代、加賀国守護富樫氏の重臣槻橋氏の居城として伝わる。



23 舟岡山城跡 (市史跡)

白山市八幡町亥83-1

舟岡山城跡は、元々本願寺若林長門守の城であったが、天正8年(1580)に織田信長の軍勢が一向一揆を一掃した際に落城したと伝えられる。その後、前田利家の重臣高畠定吉が慶長6年(1601)まで居城。城跡には石垣や土塁等が極めて良好に残る。



24 鳥越城跡 (国史跡)

白山市三坂町午20-1

鳥越城跡は、山内衆と呼ばれた白山麓の本願寺門徒が、織田信長と戦った加賀一向一揆最後の砦となった城跡。城主鈴木出羽守は頑強に抵抗したが、天正8年(1580)、柴田勝家らにより落城した。その後、織田方と山内衆との間で2ヵ年にわたり攻防が繰り返され、天正10年(1582)に掃討された。



25 二曲城跡 (国史跡)

白山市出合町チ137-1

二曲城跡は、鳥越城跡の大日川対岸に位置し、「天文日記」に記されている「二曲右京進」の城と推測される。馬蹄形を呈する二つの尾根上に5つの郭と堀や土塁が築かれている。「信長公記」には「府峠にて蜂起あり」と記され、加賀一向一揆と織田勢の激戦地となった。



26 鳥越一向一揆歴史館

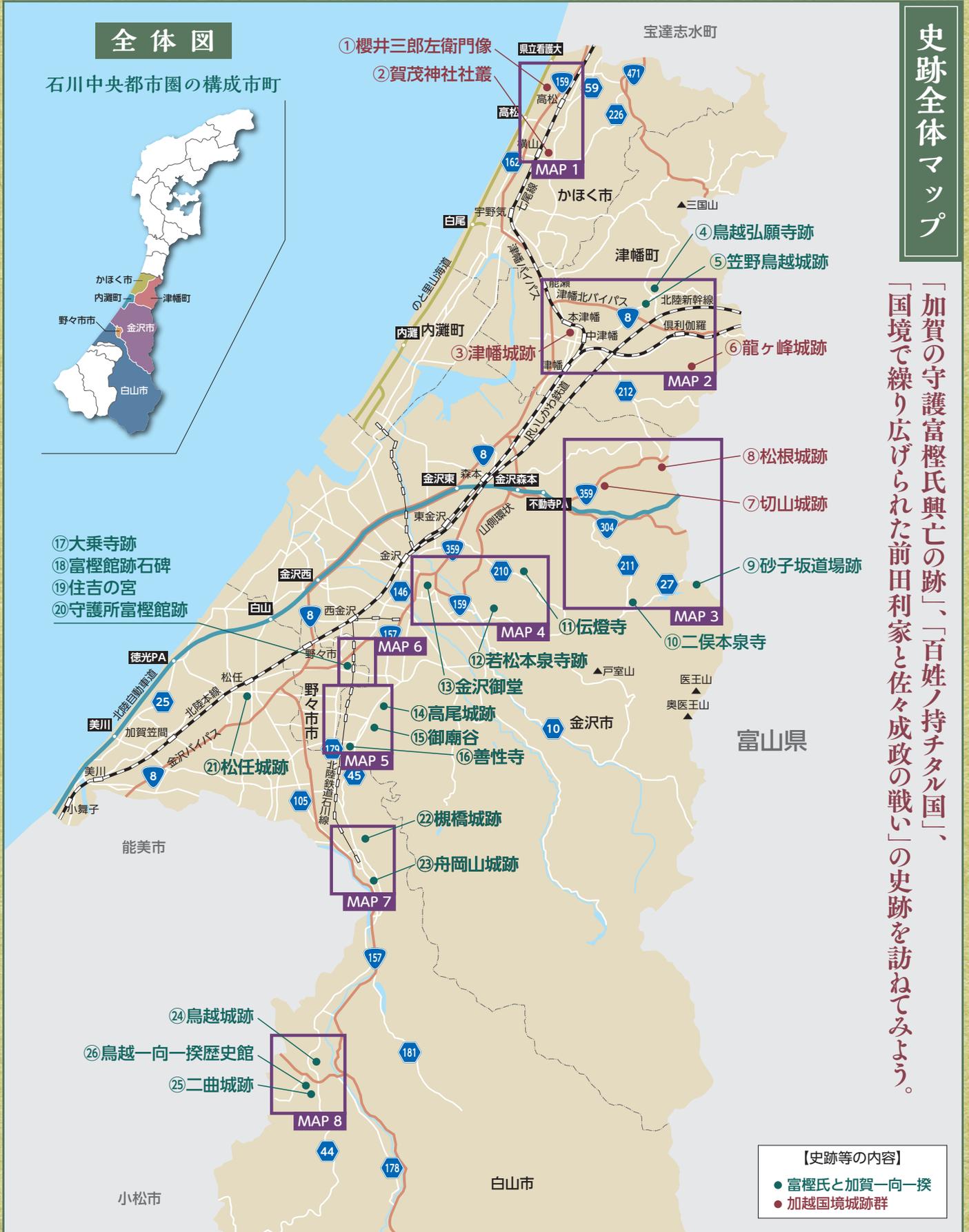
白山市出合町甲26

国指定史跡鳥越城跡附二曲城跡のガイダンス施設で、発掘調査によって出土した遺物や鳥越城の立体模型等を展示している。また、マジックビジョンや映像シアターにより「一向一揆」という史実についてわかりやすく解説している。



全体図

石川中央都市圏の構成市町



「加賀の守護富樫氏興亡の跡」、「百姓ノ持チタル国」、「国境で練り広げられた前田利家と佐々成政の戦い」の史跡を訪ねてみよう。

【史跡等の内容】
 ● 富樫氏と加賀一向一揆
 ● 加越国境城跡群

※本書は、石川中央都市圏（金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町）が地域資源の魅力向上に向けて、圏域内の歴史資産の保存活用に連携して取り組む事業で作成したものである。

【発行】金沢市 文化財保護課

【編集】石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会

【協力】白山市・かほく市・野々市市・津幡町

【お問い合わせ】金沢市埋蔵文化財センター

金沢市上安原南60番地 TEL：076-269-2451 FAX：076-269-2452

平成28年10月発行